

事業実施の
目的

大都市ならではの規模や多様性の中で、各学校や園ごとに存在する理念や目標、地域性などを生かしながら、目の前の子どもに応じた架け橋期のカリキュラムマネジメントが実現される。

事業内容
・成果
(R4年度)

1. 主な取組内容について

【架け橋期のカリキュラム開発会議】私立幼稚園園長 2 名 私立保育園園長 2 名 公立保育園園長 2 名 小学校校長 2 名

4回開催し、架け橋期に目指す子ども像の検討と、全市への発信方法について検討した。「問いをもち、問い続ける子ども」「やりたいこと・好きなことを見つけ、試行錯誤（探究）できる子ども」の姿を重視することになった。ただし、それらはいくまでも視点の一つで、カリキュラムを作る対話プロセスこそ重要であり、推進すべきであると決定した。

【架け橋期のカリキュラム】

市としては、架け橋カリキュラムデザインシート内に、基盤となる2視点を示した。全市共通で詳細な計画としてのカリキュラムは発出しない。各地区で架け橋カリキュラムを作成できるようにするための、架け橋カリキュラムデザインシートを作成し、市内1800の小・中学校及び保育・教育施設等に周知した。

【園・小学校における体制】

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を活用した幼保小の合同研修の開催割合：22%

お互いのカリキュラムを共有し合う研修の開催割合：10%

【自治体における体制】

架け橋プログラム調査員の配置（実際の取組情報の収集と、支援を行う）・探究心を育む「遊び」研究会の開催

2. 主な成果について

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を活用した幼保小の合同研修の開催割合は、架け橋プログラム開始以前のR2調査時点（6%）よりも上がっており、子どもの育ちをつなぐ幼保小の職員の研修の機会が回復傾向にあることがうかがえる。

事業実施
地域・
協力園校
(R4年度)

【実施地域】市内全域

【協力園校】※全域実施だがカリキュラム研究推進地区 3 地区を設けている。

幼：私立幼稚園 2 園、私立保育所 1 園、公立保育所 1 園

小：公立小学校 3 校

今後の目標
(R5年度)

338小学校とその連携園における架け橋カリキュラム作成に伴う対話が充実する。そのために、全区で実施されている幼保小教育交流事業における研修会等における協働的な取組を重視する。架け橋プログラムリーフレットを活用し、具体的に子どもの姿を通した対話を行うことを通して、子ども観や大切にしたい支援策などを共有し、見える化する。また、その取組に対して、こども青少年局と教育委員会事務局が連携し、支援を行えるようにする。

